



4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ 第2回日本医療コミュニケーション学会学術集会報告

木尾哲朗

同大会長、九州歯科大学 総合診療学分野

日本医療コミュニケーション学会は、患者と医療者との対人レベルのコミュニケーションを実証研究する人文社会系研究者と医療系研究者の集いである「医療コミュニケーション研究会（2001年12月結成）」を母体とし、2022年4月に「ヘルスコミュニケーション学関連学会機構」の一分科会として発展的に改組されました。研究会時代から毎年2回の研究例会を開催し、これまでの開催回数は41回になります。

今回のヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～における第2回学術集会では、「歯科領域における医療コミュニケーションの現状と展望」というテーマの下に、患者さんがご自身の患部をじっくりと見るのが難しいという特徴をもつ歯科領域のコミュニケーションについて臨床、研究、そして教育という視座からシンポジウムを開催しました。

シンポジウムの座長は、東京慈恵会医科大学の野呂幾久子先生と本稿を書いている木尾哲朗で、10月1日（日）の14:50～16:20の時間帯で実施され、3名のシンポジストに話題提供をしていただきました。

医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろの高井理人先生からは、2021年に法制化された医療的ケア児に対する歯科的アプローチと小児在宅歯科医療についての発表を、九州女子大学栄養学科の濱寄朋子先生からは、医療訴訟と歯科臨床場面における医療コミュニケーションを阻害する因子に関する研究およびコミュニケーションと患者満足度の関連に関する研究成果の発表を、そして愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科の鈴木一吉先生からは、歯科医学教育の視点から初診医療面接を超えるコミュニケーション教育という切り口から、話題提供をしていただきました。シンポジウム後半の質疑応答においてはフロアから多数の質問が寄せられ、活発な意見交換がなされました。

参加された方々には、本学会の活動と歯科医療のコミュニケーションへの関心と、あわせて日本歯科コミュニケーション学会について、より深くご理解をいただくことができたと思います。